

## 家ぞくの一点

なかやま  
中山 暖仁

サッカーチームに入って一年がすぎた時、ぼくは、しあいでまだ一点もゴールをきめたことがありませんでした。まわりの友だちは、ぼくよりも早くサッカーをはじめたので、とてもじょうずでたくさんゴールをきめていました。そんなぼくのサッカーのしあいをお父さんとお母さんと弟は、かならずおうえんにきてくれます。その日もぼくは、一点もゴールできませんでした。しあいのあと、くやしい思いをしているぼくのところにお父さんが来て「くやしいか」と言いました。

「うん」とぼくがうなずくと、「もつとれんしゅうするぞ。」とお父さんが言いました。

つぎの日の朝、ぼくとお父さんの朝れんがはじまりました。一時間早くおきてのれんしゅうがまい日つづきました。

お父さんは、夜おそくまでしごとをしてきてもかならず朝おきてぼくのれんしゅうをしてからしごとに行きます。つかれているお父さんに「だいじょうぶ。」とぼくが聞くと、お父さんは、「まい日たのしいよ。」と言ってくれました。とてもうれしかったです。

お母さんもうっしょに朝おきておうえんしてくれたり、体をつよくするごはんをかながえて作ってくれます。お母さんは「がんばっているはるびとをみてるとしあわせ。」と言ってくれます。ぼくは、もつとがんばろうと思えました。朝れんがはじまって一ヶ月ごろ弟までが朝れんをはじめました。

弟はまだ三さいです。

れんしゅうは、つらい時やうまくいかない時がたくさんありました。でも家ぞくみんながはげましてくれて、きょうりよくしてくれたおかげで、二ヶ月間の朝れんをのりきることができました。みんなにありがとうという思いで、つぎのしあいは、がんばろうと、思いました。

いよいよしあいの日です。ぼくは、ドキドキしてうまく体がうごきません。友だちは、どんとんゴールをきめました。ぼくの気もちがおちこんでいる時、お父さんが「あきらめるな、チャンスはかならず来る、みんなおうえんしてるぞ。」と言ってくれました。ぼくは、あきらめずはしりつづけました。その時チャンスがやってきました。ドリブルでゴールまえまではしりキーパーとのたたかになりなりました。ぼくはむちゅうでシュートしました。気がつくと、まわりが大きなわきでした。

ぼくははじめてゴールをきめることができました。チームのみんなもよろこんでくれました。なによりも家ぞくのみんながよろこんでくれました。ぼくもうれしかったです。

この一点は、ぼくの家ぞくの一点で、きつと一生わすれないでしょう。

ぼくをささえてくれる、お父さん、お母さん、弟、そして今お母さんのおなかにいるあかちゃんが大好きです。ありがとう。